

甘利大臣による記者会見の概要

日時：平成26年4月17日（木）23：05～23：14（現地時間）

場所：米国ワシントン、ナショナルプレスビルディング

記者：長時間の協議おつかれさまでした。何かしらの決着が図れたのか。

大臣：膠着状態が続いている。本当に長時間にわたって突っ込んだ話し合いをした。今日の第2ラウンドは9時半から先ほどまで1対1で行った。残念ながら膠着状態の打開というところまでは行かなかった。明日8時半から、もう一度行う。

記者：東京で行われた先週の協議から一定の前進はあったけれども、打開が開けていないということか、東京で行われた時から変わっていないのか。どちらなのか。

大臣：細かな部分は多少あったが、この主要なところについては前進が見られない。

記者：明日1日あるということだが、明日のうちに決着されるほどの距離感か。

大臣：相当ある。

記者：日本に戻った後、フロマンが早めに来て、首脳会談前に東京で会う可能性はあるのか。

大臣：それはまだわからない。

記者：牛肉について日豪EPAで、米国の譲歩、態度が変わるかということ、それが注目されていたが、そういうところについて何か感じられるところあるか。

大臣：東京の際にお話をした。それ以降につき特段の変化はない。

記者：今日の協議の中で品目としては何に一番長く時間を費やしたか。

大臣：それぞれだ。

記者：途中事務方で詰めの作業を行っていたと思うが、それに関してやり方について何か前進はあったのか。狙いはなんだったのか。

大臣：1対1でやってきた。そして3対3で行ったが、なかなか進展がない。事務方に議論の整理をするところは、事務方に少しやらせようということ、夕方にしたが、周辺事項でいくらか進んだところあるが、中心の部分については、東京以降の進展は難しいということ。

記者：今回の協議前、収斂していく姿を見せたいとのことだったが、現時点でそれはできていないということか。

大臣：ゼロではないが、なかなか大所についての収斂作業は極めて手間取っている。

記者：日米首脳会談の日程が近づいてきているが、明日若干時間があるとはいえ、時間がかかなり少ない中で、今後どう打開を図って行くつもりか。

大臣：いい案があれば、教えてほしい。

記者：明日ワシントンDCから帰国の途につかれると思うが、今後出張日程を延長する可能性はあるか。

大臣：そのようなことはない。

記者：明日の朝食、明日の協議はどのくらいの長さを予定しているか。

大臣：2時間近くだと思う。

記者：今朝、今日の協議がTPP交渉の行方を左右するという趣旨の発言があったが、今日の協議を終え、改めて今後の見通し如何。

大臣：やはり収斂すると、こういうことになるかと予想していたが、その通り。収斂すればするほど、難しい交渉になっている。

記者：日米首脳会談で良い成果を目指しているとの発言があったが、現時点で24日の成果につき、どの程度出せると考えているか。

大臣：どういう表明をするのか。明日どういう話になるか。ちょっとまだ今の時点では何とも言えない。

記者：先ほどのフォローアップだが、甘利大臣ご自身は滞在の延長はないとのことであったが、森大使、大江首席交渉官代理が残って交渉を続ける可能性はあるのか。

大臣：まだしていない。

記者：可能性としてはあるということか。

大臣：必要があれば残るということだと思う。

記者：収斂する中で難しさが出ているということだが、具体的に関税率等、具体的数字を出し合っただけの攻防が続いているとの理解でよいか。

大臣：収斂させていく中で、中心的な議題、いろんなことを話しているところ。

記者：初日の夕食会の際に今回の訪米について、収斂させるために来たと言っ強く申し入れたと言っていたが、その申し入れはその後の協議にちゃんと響いていると思うか。

大臣：双方が加速させる使命を持っているわけである。こちらはこちらでそう思っているし、先方もそう思っている。ただかみ合わない。なかなか上手くというところ。

記者：今朝の会見で、ハーグでオバマ大統領より、日本の農業に打撃的な影響を与える政治決断を求めないと、その言葉あるいは指示が米国側の態度に反映されていないということか。

大臣：向こうは柔軟性を示していると言うだろうが、こちらからはそうは見えないという行き違いではないか。

記者：日豪EPAは現段階でプラスに働いているか、マイナスに働いているか。

大臣：プラスだと思う。

(以上)